

株式会社ファミリーマート御中

夢の掛け橋募金 2023年度第1・2四半期報告書

国連WFP

ミャンマー・ウクライナ・リビア洪水・アフガニスタンにおける緊急支援



特定非営利活動法人

国際連合世界食糧計画WFP協会

目次

1. はじめに
2. 国連WFPの活動
3. ご寄付の使途について
4. ミャンマー（現地の状況・国連WFPからの支援）
5. ウクライナ（現地の状況・国連WFPからの支援）
6. リビア（洪水被害の状況・国連WFPからの支援）
7. アフガニスタン（現地の状況・国連WFPからの支援）

はじめに:ご支援の御礼

国連WFPは、飢餓をゼロにすることを使命に活動しています。

平素より国連WFPの活動に温かいご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ファミリーマートをご利用のお客さまや、各店舗スタッフの皆さまのご理解とご協力により、**ミャンマー、ウクライナ、リビア、アフガニスタン**の4国への緊急支援として「ファミリーマート夢の掛け橋募金」2023年度第1・2四半期中、**49,965,397円**のご寄付をいただきました。

皆様からのご寄付は国連WFPを通じて人々の命へとつながっています。

これからも温かいご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

国連WFPの活動



飢餓から 救う。

◎緊急支援

輸送・通信支援

防災・減災

未来を 救う。

◎母子栄養支援

◎学校給食支援

自立支援

現金支給

社会保障

気候変動への対応

持続可能な暮らしの強化

サプライチェーン

パートナーシップ

緊急支援

国連WFPは紛争、自然災害やパンデミックなど様々な緊急事態に率先して対応する組織です。

世界中どこへでも48時間以内に最初の食料を届けることを目指して活動し、その後迅速に支援を拡大します。



緊急支援は食料支援、現金支給、栄養補給、学校給食支援など様々な支援の仕方を組み合わせます。

輸送・通信支援

私たちは国連のロジスティクス(物資輸送)チームのリーダーとして、紛争・災害地域に救援物資を届ける役割を担っています。また、緊急通信の面においても、遠隔地域における情報通信サービスを提供しています。

国連WFPは国連人道支援航空サービス (UNHAS) および国連人道支援物資備蓄庫 (UNHRD) を管理しており、

この2つのサービスを通して国連機関・NGOの職員や支援物資が最も必要な場所に行きつくように努めています。



学校給食支援

学校給食は子どもたちの栄養状態や健康を改善し、将来を大きく左右する教育への道を開きます。

学校給食は可能な限り現地で調達され、小規模農家の生計を支えると同時に地域経済へのプラスの影響も与えています。

また、私たちは現地のパートナーと協力し、マラリア予



防や生理衛生用品、衛生基準についての指導など、子どもたちに必要な健康・栄養サービスを提供しています。

母子栄養支援

栄養状態の改善は、国連WFPの活動において大変重要な課題です。近年、私たちの活動は緊急支援に留まらず、ビタミン・ミネラル不足や肥満から発生する栄養不良の治癒にも努めています。

国連WFPは幼い子ども、妊産婦やHIVとともに暮らす人々へ健康的かつ十分な食事を提供します。また、お母さんの

お腹に子どもが宿ってから1,000日間の栄養が重要とされており、早い段階から母子支援を実施しています。



現金支給

国連WFPは紙幣、食料引換券、電子マネー、モバイルマネーやデビットカードなど、多様な手段を通して受益者に現金支給を行っています。

現金支給は、人々に必要な物資を購入する自由を提供することで、自身で「選択を行う」機会が増加し、
自立心の向上にも繋がります。

また、小規模農家の生産性向上や地域経済の活性化に寄与します。



自立支援

国連WFPは地域住民に土地の修復、井戸や道路作りなどの公共事業に参画してもらう対価として、食料・現金、気候リスクに対する保険の提供を行っています。

公共事業は、災害対応力を上げることにも繋がり、住民の生活を守ることにも寄与します。

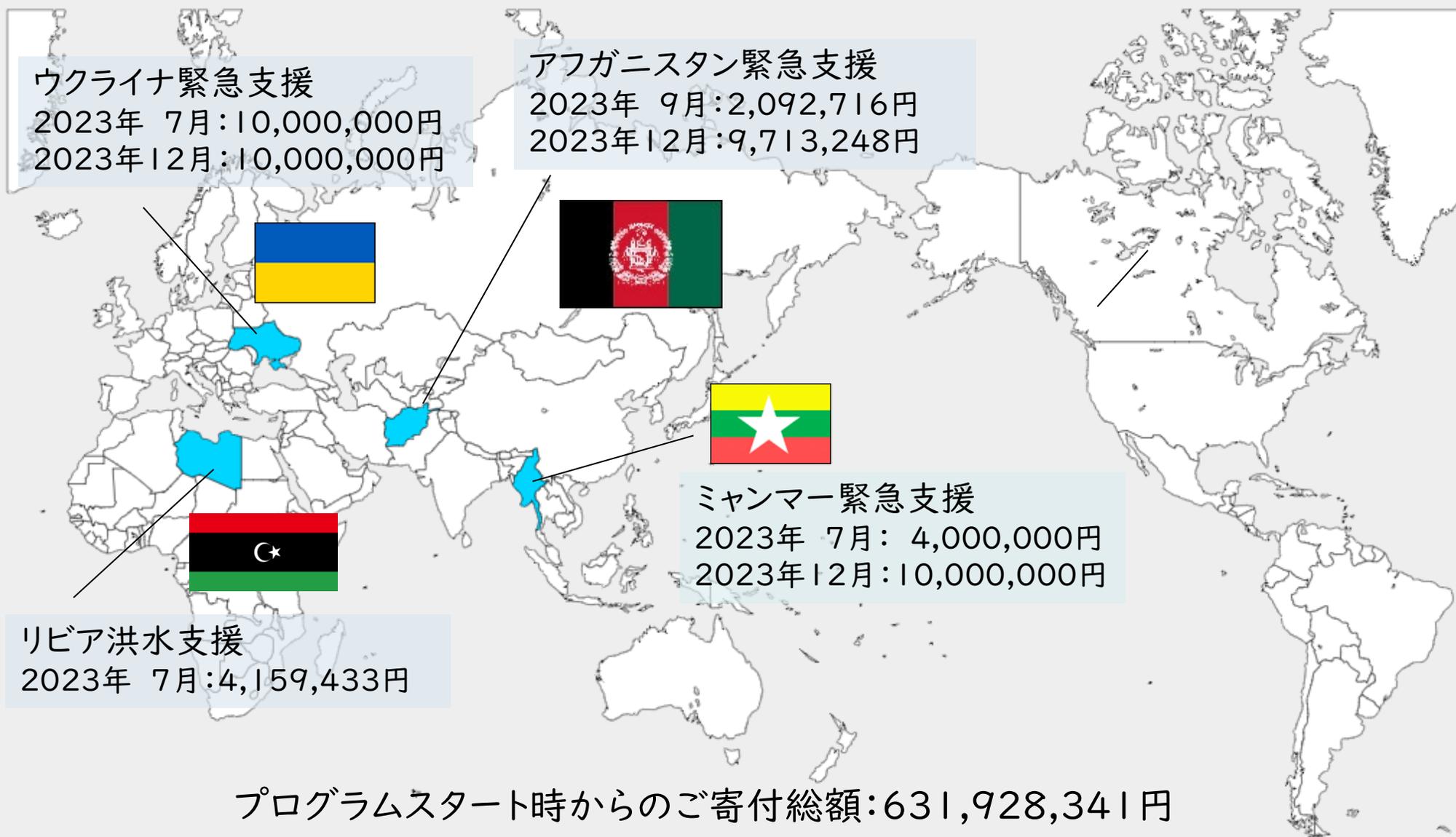
また、自立支援の一環として、穀物バンクや備蓄食料の管理、養蜂や堆肥作りなどの技術訓練もを行っています。



ご報告



ご寄付の使途について



ミャンマー連邦共和国：支援地の状況



- ・2021年2月1日、ミャンマー政府軍が軍事政権を掌握し、選挙で選ばれた**文民政府を追放**。
→政治危機は全国的な不安定をもたらし、政府軍と反政府軍との紛争が激化。
- ・2023年12月現在、およそ**260万人が避難生活を余儀なくされ**、わずか数ヶ月の間に**60万人以上**が紛争から逃れるために故郷を離れている。

写真左：カレン州での激しい戦闘から逃れ、バゴー地域の仮設テントで暮らす家族
写真右：バゴー地域の食料配布場所でWFPからの救援食料を運ぶ避難民家族

ミャンマー連邦共和国：学校給食支援



- ・国連WFPの学校給食支援対象：未就学児と小学生
- ・学校に通う子どもたちには、給食の時間に**栄養強化ビスケット**または**調理された食事**が提供される。
- ・食事は主に国連WFPからの資金提供を受けて準備され、地域ボランティアと保護者は教師と協力して**地元の食材**を購入し、学校給食を準備する。
- ・紛争と高インフレ（マーケットの制限によって食料価格が高騰）によって、学校給食が子どもたちにとって**唯一の栄養価の高い食事**となっている場合が多い。

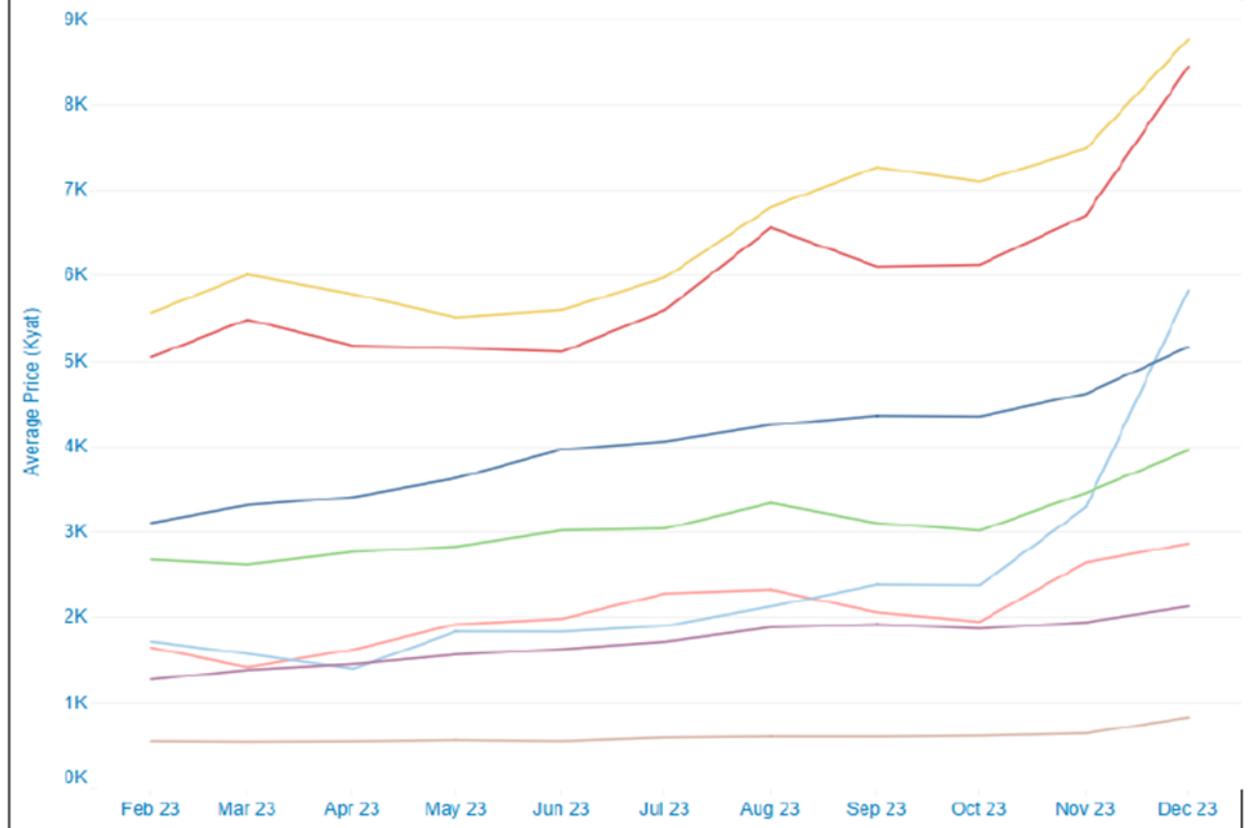
ミャンマー連邦共和国：市場価格



- ・ラカイン州への物資の流れ、地域間の物資の流れが遮断されている
- ・2022年度比で、2023年の市場価格は大幅に上昇している

米：+89%、
パーム油：+74%
ミックス油：+75%
ひよこ豆：+68%
ベーシック・フード・バスケット：+80%
タマネギ：+125%
トマト：+56%
卵：+60%
燃料：+56%

Overall Average Prices Trends by Commodity
(excluding Wa Region & Laukaing as monitored in Chinese Yuan)



Commodity

Rice MOil Egg Tomato
POil Chickpea Onion Salt

ミャンマー国内の71のタウンシップ、111の市場、305の商店から収集した、商品の平均価格の傾向データ

ウクライナ：支援地の状況



- ・ウクライナ戦争の激化から2年が経過したが、戦闘は衰えずに続いている
- ・5世帯に1世帯が食料不安を抱えている
- ・前線から30km以内に暮らす約90万人は、インフラ（電気ガス水道）が寸断され、スーパーマーケットも閉店しているため、毎日の生活が困難となっている

ウクライナ: キーナンバー



- 現在の紛争は第二次世界大戦以来最も急速な強制人口移動を引き起こし、現在までにウクライナからの移民は**1,700万件**と記録されている。
- 避難民はヨーロッパ全土で記録されており、全体として、ウクライナ人の**3人に1人**が避難を余儀なくされている。
- 避難民及び帰還した人々の多くは仕事を失っており、戦前に仕事があった人々の**36%**が失業しており、国内避難民のウクライナ人の**51%**が依然として失業していると推定されている。

人道支援を必要としている人の数	1,460万人
2024年1月に国連WFPがウクライナで支援した人数	240万人
2022年4月以降のウクライナにおける現金送金総額	5億5,000万米ドル
国内避難民の数	490万人
今後6か月間で国連WFPの支援に必要な資金需要	1億8,000万米ドル

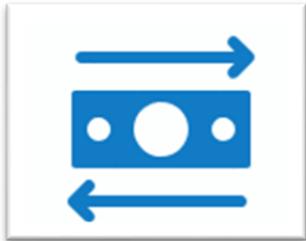
ウクライナ：国連WFPの支援（2023年）



食料支援

【現物食糧支援を受けた人数：300万人】

パン、緊急対応配給、一般食料配給（GFD）で構成され、市場が機能していない地域の人々にサービスを提供しています。地元のベーカリー14社と契約し、国内6社と国際協力パートナー3社が現物支援を支援しました。地方自治体との緊密な連携により、紛争の影響を受ける地域でのアクセスが改善され、タイムリーな支援が可能になりました。



現金支援

【現金支援を受けた人数：200万人】

市場で食料が入手可能な地域では、紛争の影響を受けた人々に現金支援を実施し、地元の市場状況の回復を促進しました。送金会社の仲介により、1世帯あたり最大5人が銀行を通じて毎月2,220 UAH（67米ドル）相当の現金を受け取りました。現金取引は、SMSで受益者の携帯電話に送信されるコードを介して銀行で引き換えられました。



学校給食支援

【学校給食支援を受けた人数：約5万人】

国連WFPは、小学生に毎日温かい食事を提供するための財政需要の30%を支援しました。このプログラムは地方行政の財政負担を軽減し、紛争の影響を受けた子どもたちの栄養を改善することを目的としています。プログラムは試験段階を経て拡大し、11の州の420以上の学校が参加登録しました。2024年にも拡大を計画し、さらに多くの児童にプログラムを拡大する予定です。

リビア:洪水被害の状況



- ・2023年9月10日に発生した暴風雨ダニエルの影響により、リビア北東部は**大規模な洪水**に直面し、アル・マルジ、バタハ、アルバイダ、シャハト、スーザ、デルナなどの地域社会が大きな被害を受けた。
- ・家屋やインフラが破壊され、日常生活に支障をきたしており、被災住民にとって**徹底した人道的対応**が緊急の課題となっている。
- ・被災状況に対処し、必要不可欠なサービスを復旧させ、これらのコミュニティにおける持続可能な復興の基盤を築くためには、協調的な取り組みが必要とされている。

リビア: 国連WFPの支援 (ハイライト)



支援地の状況



884,000人
人道的支援が必要な人数



353,000人
人道的支援が必要な子どもの人数



80校
洪水の被害を受けた学校数



43,000人
国内避難民の人数

国連WFPによる支援



56,205人
56,205人の洪水の被害者に対して食料支援を実施



461トン
洪水被害者に461トンの食料を26の州で提供



12,374コール
12,374件の問い合わせに対応



46件
46の第3者モニタリング機関による訪問を実施

リビア：国連WFPの支援



■ 食料支援・現金支援

合計1,045トンの食料と約44万USドルの給付を通じて、洪水で被災した126,000人以上に支援を実施しました。

■ 気候危機対応（レジリエンス強化）

緊急対応から早期復興へとフェーズが変わる中で、洪水の影響を受けた周辺地域で、下記のような気候変動とレジリエンス強化施策に積極的に取り組んでいます。

これらは、危機後の長期的な持続可能性と回復力を育成し、洪水被害から回復するだけでなく、将来の課題に対してより強く、より強靱に立ち上がることを確実にする効果があります。

- ✓ 地元のパン屋への太陽光発電システムの設置
- ✓ 小規模事業を支援するための助成金の提供
- ✓ 地元の食料システムの安定化と活性化のための協調的な取り組み

アフガニスタン: 支援地の状況



- ・ 10月7日正午前、アフガニスタン西部地域のヘラート州で**マグニチュード6.3の地震**が発生。
- ・ 10月11日、国連WFPは3つの村の被災世帯500世帯に1か月分の食料を配布した。
- ・ 国連WFPは2つの村に移動式倉庫を迅速に設置し、国連WFPの支援物資及びパートナー団体の支援物資の保護にあたった。
- ・ 国連WFPは約3万4,000人に対し、**164tの食料**、**12tの栄養強化ビスケット**、**3.6tの子ども向け栄養支援**などの緊急食料支援を行った。

アフガニスタン: シャリファさん一家



© WFP/Mohammad Hasib Hazinyar



© WFP/Mohammad Hasib Hazinyar

30歳のシャリファさんは、首都カブールの非公式居住地で暮らす何千人もの人々の1人。数年前に夫を事故で亡くし、彼女は5人の子どもを1人で養っています。現在、事実上の当局の規制によって彼女は家を出ることも働くこともできず、代わりに子どもたちがごみを集めて売り、1日50アフガニ(0.6ドル)程度のお金を稼いでいます。6人家族が食事をするにはとても足りず、物乞いをせざるを得ません。資金不足に伴う配給量削減により、シャリファさんの家族や他の何千もの家族は、国連WFPの食料支援を受けられなくなっています。今後国連WFPは、2,100万人に支援を提供するため、10億米ドルを必要としています。

アフガニスタン：国連WFPの支援（2023年）



1,580万人

緊急食料または現金支援を受けている人の人数



507,299トン

食料支援が必要な人々に配布された緊急食料及び栄養物資の量



1億840万米ドル

緊急の現金給付が必要な人々に支払われた金額



120万人

120万人の妊娠中・授乳中の女性と女兒に栄養価の高い食料を提供



150万人

150万人の6～59カ月の子どもたちに栄養価の高い特殊食品を提供





ご支援いただき
ありがとうございました。

NPO法人国連WFP協会 企業・団体連携チーム
kigyo@jawfp.org
 045-221-2515